

8-2 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（2004年5月～2004年10月） Seismic Activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku Districts (May 2004 - October 2004)

気象庁・大阪管区気象台
Osaka District Meteorological Observatory, JMA

今期間、近畿・中国・四国地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 91 回（そのうち 84 回は紀伊半島沖・東海道沖の地震活動）、M5.0 以上は 10 回（全て紀伊半島沖・東海道沖の地震活動）、M6.0 以上は 4 回（全て紀伊半島沖・東海道沖の地震活動）発生した。このうち最大は、2004 年 9 月 5 日に東海道沖で発生した M7.4 の地震であった。

2004 年 5 月～2004 年 10 月の M4.0 以上の震央分布を第 1 図に示す。

主な地震活動は以下の通りである。

(1) 鳥根県東部の地震活動（第 5 図）

2004 年 8 月 5 日頃から鳥根県東部 [平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震（M7.3）の西南西約 20 km に並行する断層] で、M2.6 を最大とする地震活動が活発になり、地震回数は 400 回を超えた。一連の活動は約 1 ヶ月間で元の状態に戻っている。なお、鳥取県西部地震の余震活動は、現在も継続しており、余震域の北部で比較的活発である。

(2) 紀伊水道の地震活動（M4.4, 最大震度 3, 第 4 図）

2004 年 10 月 27 日に紀伊水道の深さ 39 km で M4.4（最大震度 3）の地震が発生した。発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。この付近では、1923 年 8 月から 1962 年 1 月 4 日まで M6.0 以上の地震が 5 回発生しているが、その後は発生していない。

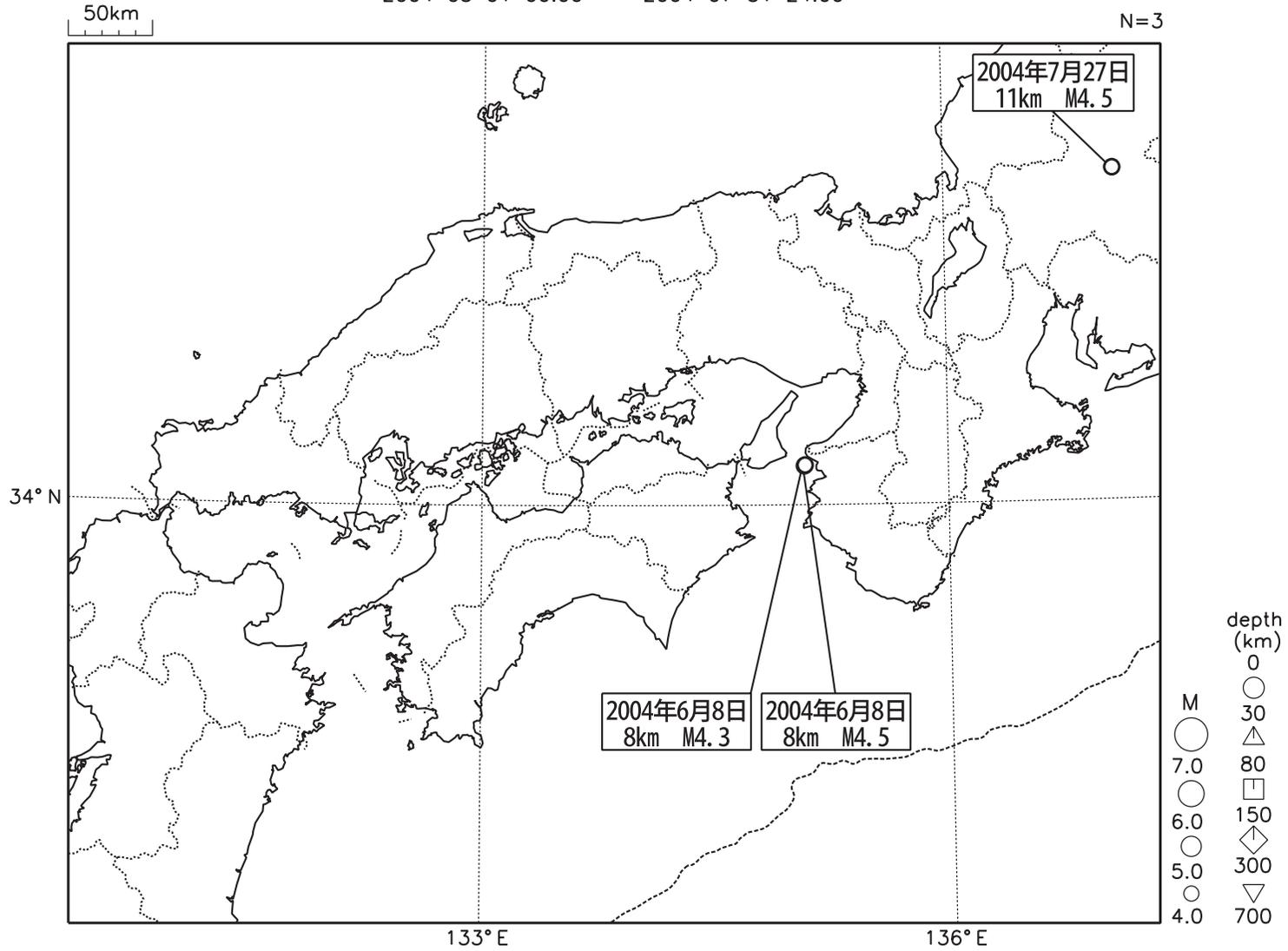
(3) その他の地震活動（第 2, 3 図）

2004 年

月日	震央地名	規模 (M)	深さ (km)	最大震度
6 月 8 日	紀伊水道	4.5	8	3
6 月 8 日	紀伊水道	4.3	8	3
7 月 12 日	兵庫県南西部	3.9	11	3

近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動(2004年5月~7月、 $M \geq 4.0$)

2004 05 01 00:00 -- 2004 07 31 24:00



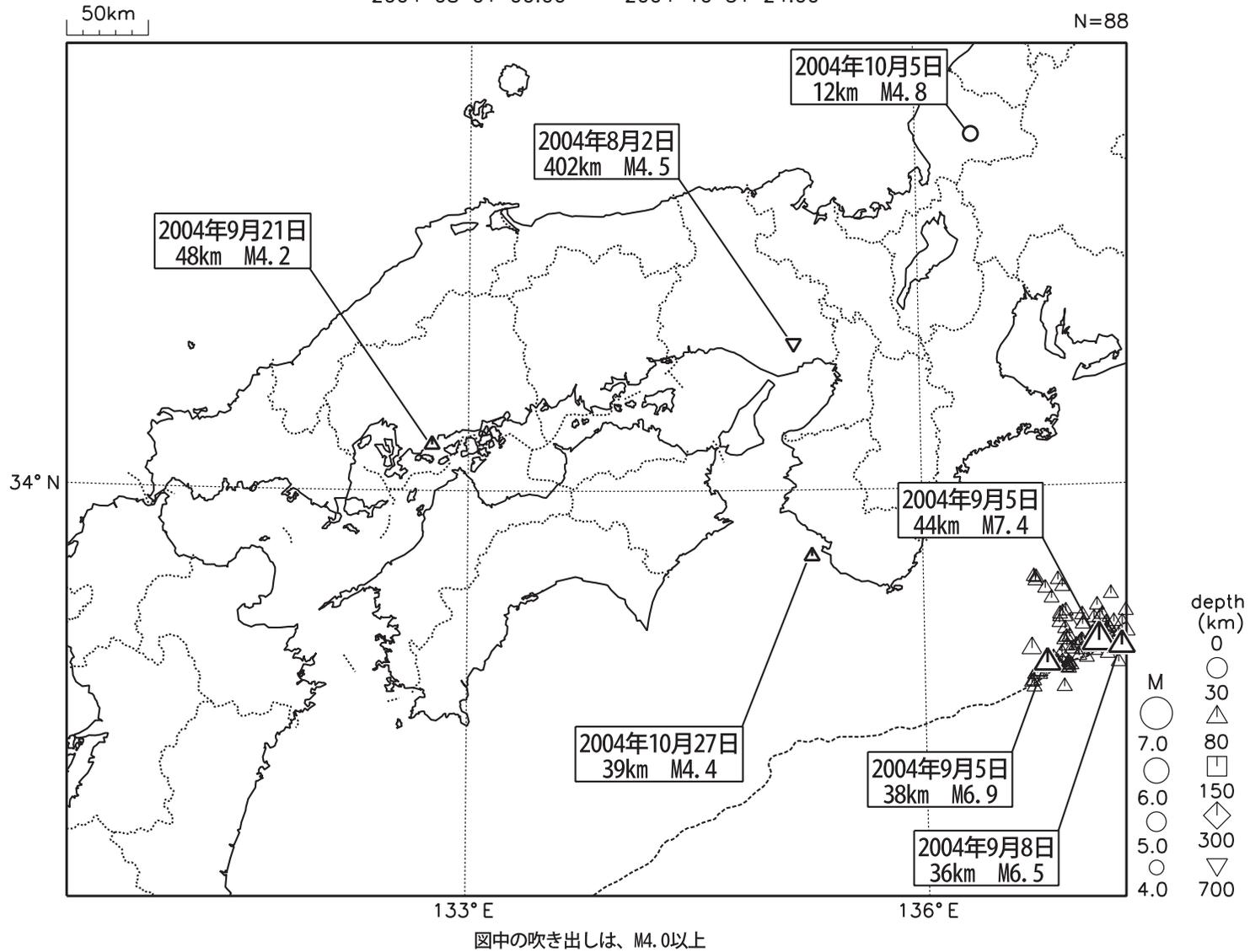
図中の吹き出しは、 $M4.0$ 以上

第1図(a) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動(2004年5月~7月、 $M \geq 4.0$ 、深さ ≤ 700 km)

Fig.1(a) Seismic Activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku districts (May - July 2004, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).

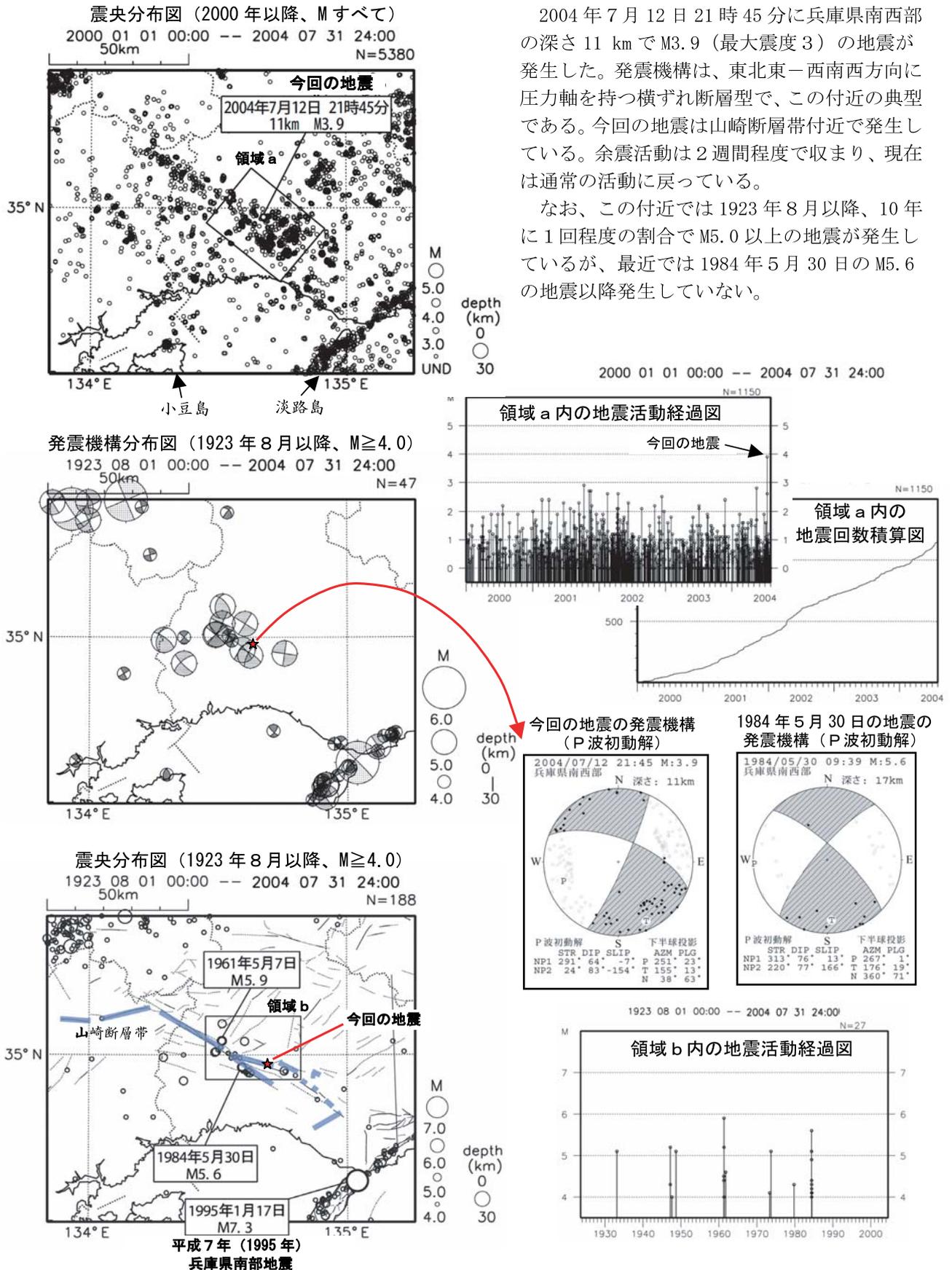
近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2004年8月~10月、 $M \geq 4.0$)

2004 08 01 00:00 -- 2004 10 31 24:00



第1図 (b) つづき (2004年8月~10月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)
Fig.1(b) continued (August - October 2004, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).

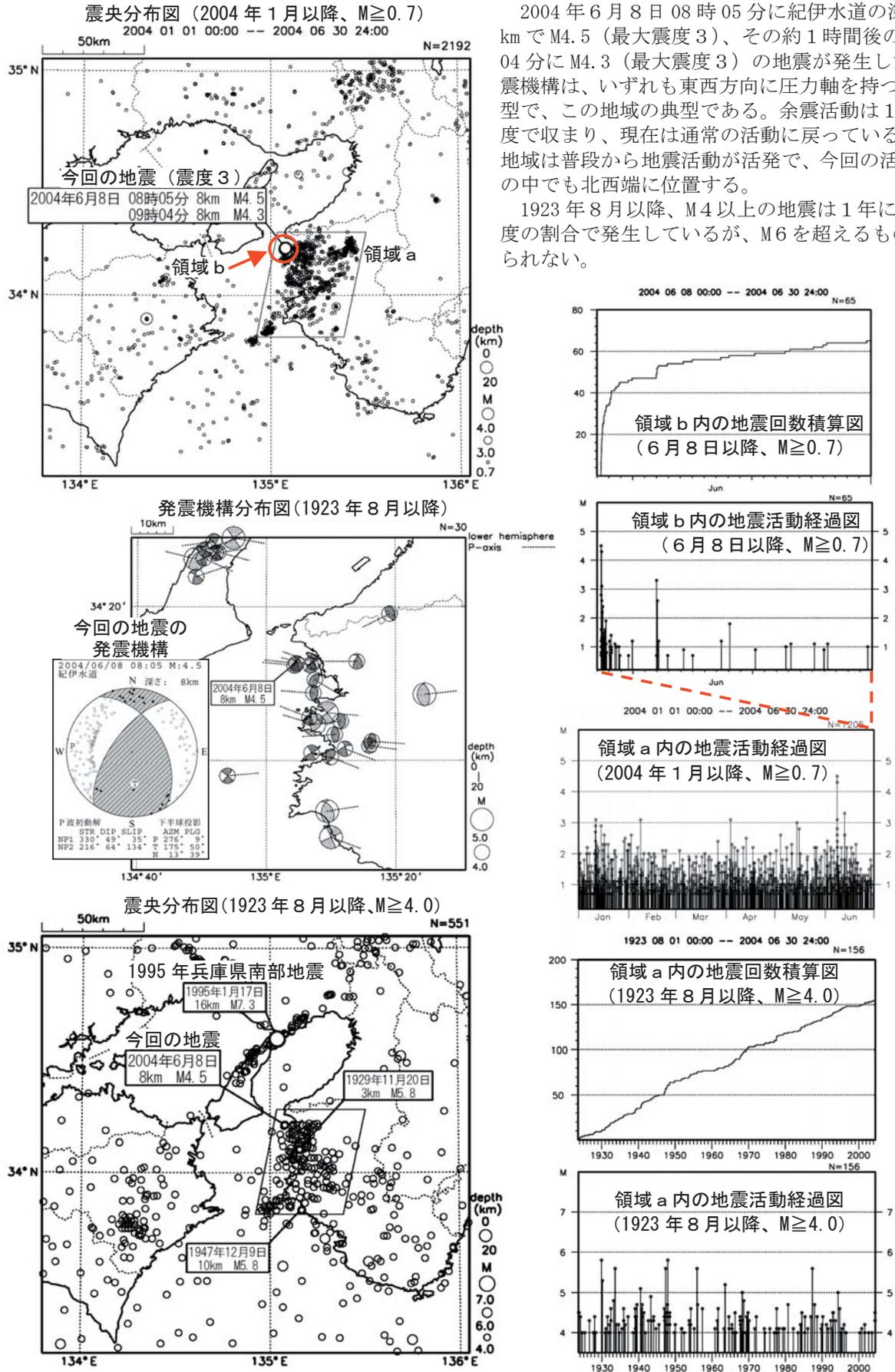
7月12日 兵庫県南西部の地震



第2図 兵庫県南西部の地震活動

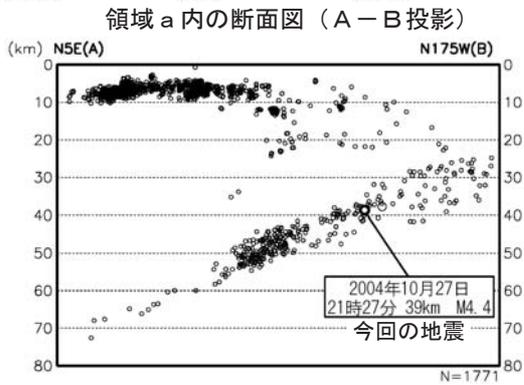
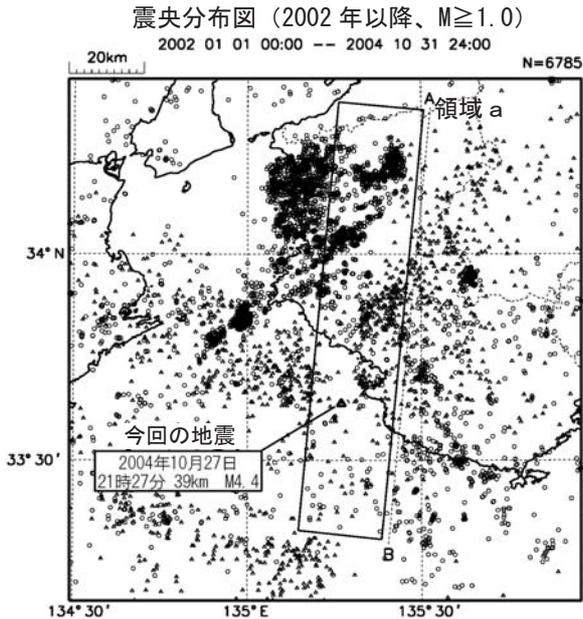
Fig.2 Seismic activity in the southwestern part of Hyogo prefecture.

6月8日 紀伊水道の地震



第3図 紀伊水道の地震活動
 Fig.3 Seismic activity in the Kii Channel.

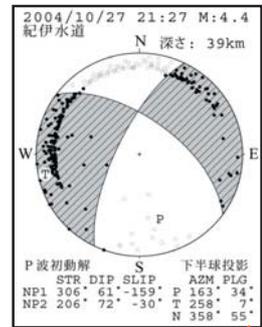
10月27日 紀伊水道の地震



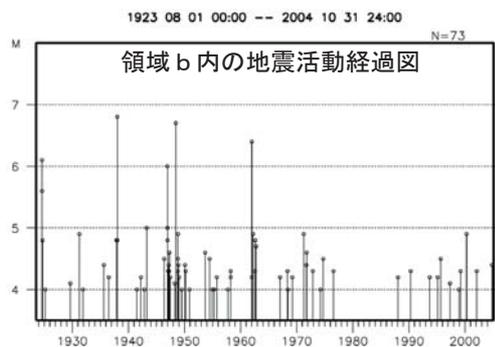
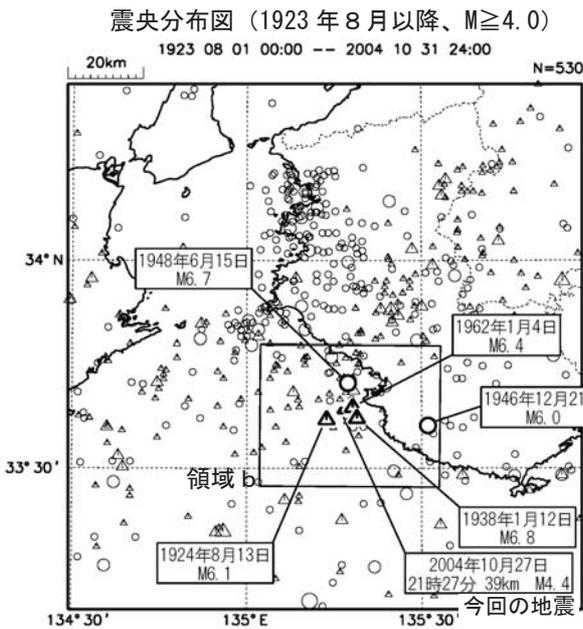
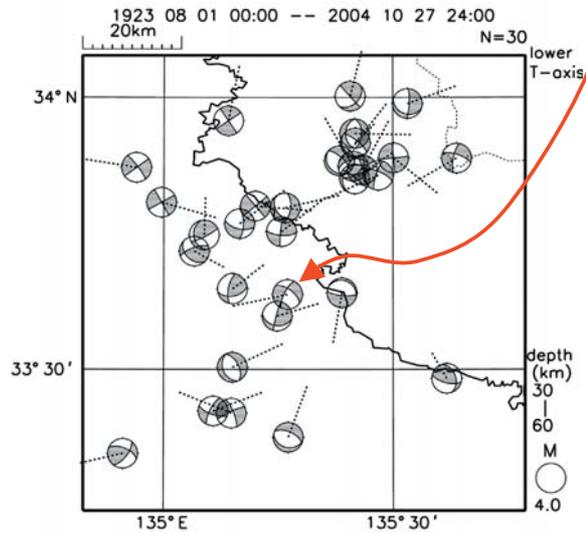
2004年10月27日21時27分に紀伊水道の深さ39kmでM4.4(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東北東-西南西に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。張力軸の方向はこの付近でよくみられるものである。余震は約4分後にM2.0の地震が1回観測されている。

今回の地震の付近(領域b)では、M6.0以上の地震が1923年8月以降5回観測されているが、1962年1月4日の地震(M6.4)以降は発生していない。

今回の地震の発震機構 (P波初動解)



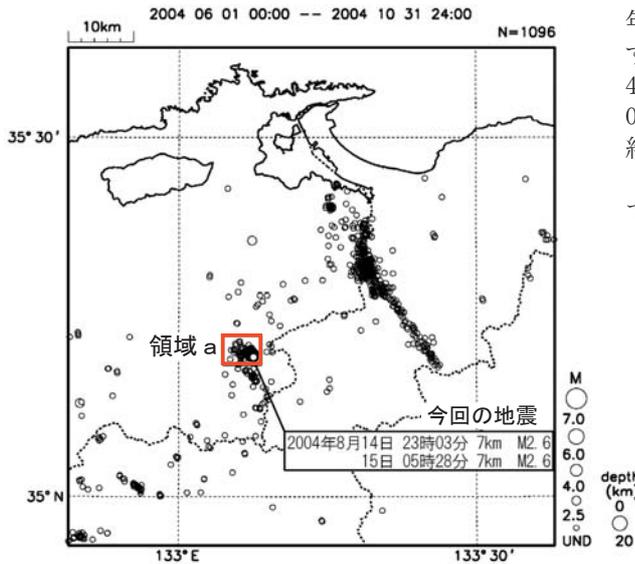
発震機構分布図 (深さ30~60km、T軸表示)



第4図 紀伊水道の地震活動
Fig.4 Seismic activity in the Kii Channel.

8月5日～ 島根県東部の地震活動

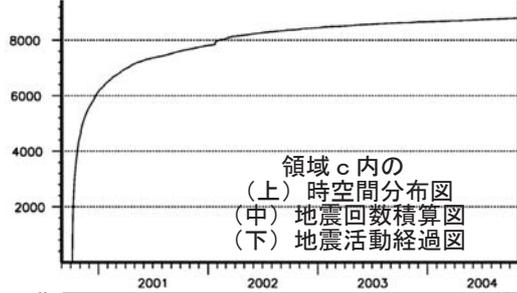
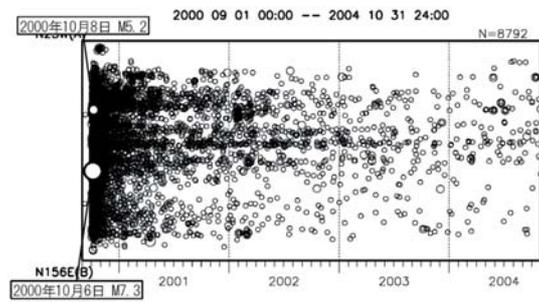
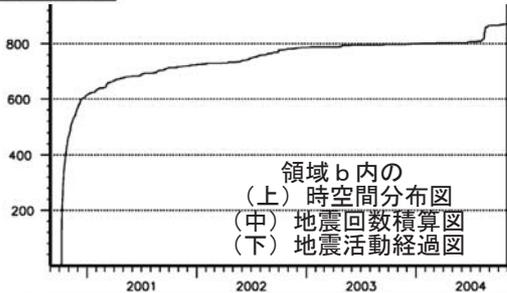
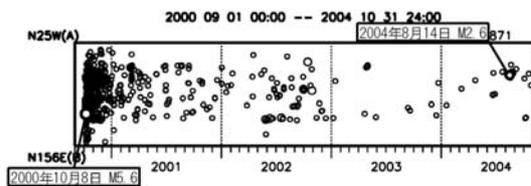
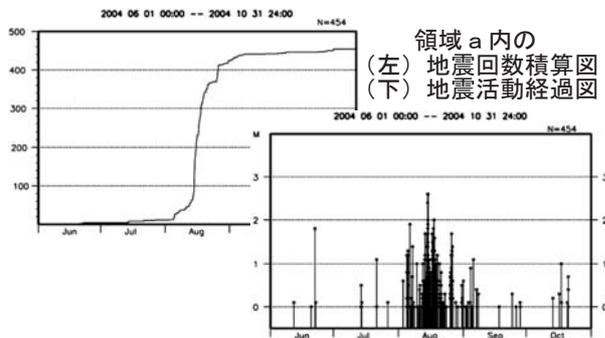
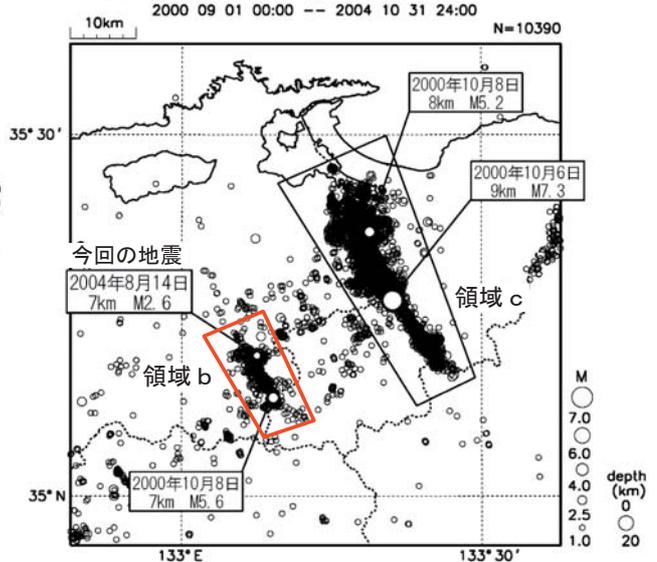
震央分布図 (2004年6月以降、Mすべて)



2004年8月5日頃から島根県東部[平成12年(2000年)鳥取県西部地震 (M7.3) の西南西約20kmに並行する断層]で、地震活動が活発になり、地震回数は400回を超えた。最大規模の地震は、8月14日23時03分と翌日05時28分のM2.6である。一連の活動は約1ヶ月間で元の状態に戻っている。

なお、鳥取県西部地震の余震活動は、現在も継続しており、余震域(領域c)の北部で比較的活発である。

震央分布図 (2000年9月以降、M≥1.0)



第5図 島根県東部の地震活動

Fig.5 Seismic activity in the eastern part of Shimane prefecture.